

海外ボランティアが中村副知事を表敬しました

令和5年6月19日(月)、国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊等として派遣される森田千晴(もりた ちはる)さんが、中村副知事を表敬訪問しました。

森田さんは青年海外協力隊として、インドネシアのスメダン県にある国立タンジュンサリ農業高校に「野菜栽培」という職種で2年間派遣されます。

現地では日本の野菜栽培の技術に係る助言を生徒や教員に行ったり、日本のナス、キュウリ等の試験栽培を生徒たちと一緒に実施する予定です。また日本文化、日本語の紹介等も生徒達に行っていくそうです。

現在森田さんは、福井市にある「株式会社農園たや」に就労中で、在職のままで、青年海外協力隊に参加するそうです。(現職参加制度)

会社ではインドネシアからの農業技能実習生を受け入れていて、日々一緒にお仕事をされています。その実習生達が高校時代に通っていた母校に今回派遣されるとのことで、すでに帰国した実習生達に現地で再会できることも楽しみだそうです。



森田さんが青年海外協力隊に応募したきっかけは、小さいころから海外で生活することに憧れがあり、大学では農業を学んでいたため、その両方を活かした活動ができる青年海外協力隊になりたいと思い、応募して、今回その夢が実現したそうです。



インドネシアではインドネシア語のほか、各地域で話される言語が200種類以上あり、派遣先の地域で話される言語は現地で覚えることになるということです。

現地では日本に関するカルチャーも人気で、日本語を覚えたいという若者も多く学校にも日本語クラブなどもあるそうで、そのクラブにも参加する予定だそうです。生徒たちに日本語を教える際には、一緒に福井弁も広めていきたいと話されていました。

食べ物に関しては、初めて見た物でもあまり躊躇なく食べることができるということで、インドネシア料理にどんどんチャレンジしていきたいとのことでした。

最後に副知事は、「現地での生活では思いもよらないご苦労もあるかと思いますが、体調やけがには十分気を付けて、インドネシアと福井の懸け橋となる人になっていただきたいです。また福井に戻ってこられた際には、ぜひ現地で体験した話を聞かせてください。ご活躍を期待しています。」と激励の言葉を贈りました。

